PR 人と地域と行政をつなぐ 週刊マガジン まち・ひとつながる

人と地域と行政をつなぐ 週刊マガジン

まち・ひとつながる

熊本市まちづくりセンター通信 vol.19

熊本市各地域の「まちづくりセンター」の活動報告・イベント情報をお知らせします。

中央区新屋敷付近を流れる大井手（写真奥が上流）。下流に行くにつれ二の井手、三の井手と枝分かれします

中央区まちづくりセンター

「大井手の楽校」大井手・白川おやこスケッチ大会
加藤清正が築いた農業用水路はホタルが舞う貴重な地域の財産

今から400年以上前の慶長年間に、肥後藩主・加藤清正によって造られたといわれる「大井手」。熊本市中心部を流れる白川の渡鹿堰（とろくぜき）から取水し、大江、新屋敷を流れ、九品寺の安巳（あんせい）橋付近で再び（白川に）合流する全長約2・6キロの農業用水路です。この大井手の歴史や役割を広く知ってもらうために、中央区がまちづくり事業の一環として行っているのが「大井手の楽校」です。

「大井手の楽校」では、これまで大井手にまつわるワークショップや里川歩きなどを開催してきました。1月27日には、熊本市内在住の小学生以下の子どもを対象にした「大井手・白川おやこスケッチ大会」を実施。約50人の親子連れが参加しました。

参加者は、大井手の清掃活動とホタルの飼育に長年取り組んでいる「大井手を守る会」の渡邉幸助会長から（大井手の）歴史や会の活動についての説明を聞いた後、実際に新屋敷周辺の大井手沿いを歩きながら、スケッチのイメージを膨らませました。

渡邉会長は「私たちの子ども時代は、魚を捕ったり泳いだりして遊んでいました。徐々に都市化が進み、生活排水が大量に流れ込んだため、昭和40年代ごろにはドブ川のようでした」と振り返ります。しかし、守る会の長年にわたる清掃活動のおかげで、毎年5～6月にはホタルが舞うまでに水質が改善されました。

400年たった今も市内の農地を潤す重要な水路

農業用水路として整備された大井手。実は、今も"現役"の水路として活用されています。途中、一の井手、二の井手、三の井手と枝分かれし、東区や南区の農地約250ヘクタールへ水を運ぶ役割を担っています。スケッチ大会では、大井手の水を使って栽培したお米がプレゼントされ、参加者は「400年も前に造られた井手が今も使われているなんてすごい！」と驚いた様子でした。

「大井手の楽校」を主催する中央区まちセンの道家梨花さんは、「『守る会』をはじめとする地域の活動のおかげで、大井手が地域の貴重な財産として活用されているんです」と話します。

この日描かれた作品は、3月18日に中央区大江のイオン熊本中央店1階の催事スペースで優秀作品の表彰を行った後、25日まで同会場に展示されます（シンガーソングライター・MICAのミニライブも開催）。参加した子どもたちの目に、大井手がどのように映ったのか、ぜひ皆さんも見てみませんか。

大井手沿いで思い思いに絵を描く子どもたち。どんな作品に仕上がっているか楽しみです

「大井手を守る会」は地域活動のお手本 地域の"宝"をコミュニティーづくりに活用

中央区まちづくりセンター 道家 梨花さん

大井手は歴史的な価値があるだけでなく、コミュニティーづくりにも役立っている地域の"宝"です。中央区まちセンでは、今後もこうした眠っている地域の財産の掘り起こしをサポートしていきます！ 大井手を守る会の活動などに興味のある方は、中央区まちづくりセンターまでお問い合わせください。

私も参加しています！

40年以上続く清掃活動 子どもたちに知ってもらい次世代の担い手に

大井手を守る会 会長 渡邉 幸助さん

「大井手を守る会」では、前身のホタルの会を含め、40年以上にわたって月1～2回の清掃活動を行っています。現在、20～30人で活動していますが、誰もが大井手の環境を守ることを"自分事"として考えているのが、活動を継続できている秘けつではないかと思います。

今回のスケッチ大会のように、小さい子どもたちにも大井手の歴史や役割、そして、ホタルを見られる環境がどのように維持されているかを知ってもらうことで、私たちの活動が次世代にも引き継がれていけばうれしいですね。今後も、ホタルが舞う大井手の環境を守り、多くの皆さんにホタルを見てもらえるよう活動を続けていきます。

実際に大井手沿いを歩きながら、渡邉さんらの説明を受ける参加者

わがまちTopics

市内各校区で行われたさまざまなイベントの様子や、これから行われる催しの情報を、まちセンとの関わりなども交えて紹介します。

参加者募集

3/21（水・祝） あなたの"第2の人生"を豊かにするヒントが見つかる!?

【退職後！子育て後！充実したセカンドライフを送るには？ ～地域活動・ボランティアのススメ！～】

仕事や子育てがひと段落した皆さん、自分の時間をどう使い、何に生きがいを求めますか？ そのヒントは地域活動にあり！ 生涯学習インストラクター、ボランティアコーディネーターの山口温代さんを講師に迎え、セカンドライフセミナーを開催します。■場所／清水公民館ホール ■参加費／無料（先着50名、要事前申し込み） ■時間／10時～11時30分 ■申し込み／清水まちづくりセンター ☎096(343)9162

参加しませんか、「町内自治会活動」 あなたの加入が深める地域の絆

災害時をはじめ、日常生活でのさまざまな地域の課題や問題を協力しながら解決し、住みよいまちを作るために重要な役割を担っている「町内自治会」。その活動は、地域住民一人一人の協力で成り立っています。町内自治会へ加入したい方は、お近くのまちづくりセンターにご相談ください。

自治会の主な活動

- ●防犯・防火・交通安全活動
- ●自主防災活動 ●環境美化活動
- ●地域福祉活動 ●レクリエーション活動
- ●市からの広報文書の配布・回覧 など

城南地域って、こんなとこ。

近代日本の歴史を知る上で重要な人・施設に光を当てる！

城南地域には、日本の近代史にとって重要な人物や史跡があります。1908（明治41）年の第1回ブラジル移民船の輸送責任者を務め、"ブラジル移民の父"と呼ばれた上塚周平。旧城南町の名誉町民第1号でもあり、今もその功績を後世に語り継ぐ取り組みが盛んです。また、1941（昭和16）年に造られた陸軍隈庄飛行場の跡地には、今も油倉庫や弾薬庫などの戦争遺跡が残っています。

今年はブラジル日本人移民110周年にあたり、再び脚光を浴びる上塚周平（上写真）。左は、戦時中の状況を知ることのできる数少ない遺跡・陸軍隈庄飛行場油倉庫

ハイ！ 城南まちづくりセンターです！

熊本市内17カ所のまちづくりセンターを、それぞれのまちセンスタッフ（地域担当職員）が紹介します！

一緒に"まちづくり"について考える仲間を募集しています！

所長 岩岡 博文さん

城南まちセンでは、所長の私を含め3人のスタッフで、杉上、隈庄、豊田の3校区を担当しています。城南地域は太鼓や獅子舞、大蛇踊りなど、地域の伝統文化の継承に力を入れていて、そこで生まれた世代間の交流が、まちづくりにも生かされているのが特長です。また、「Team城南ワンダホー」など、地域の若手が"まちの魅力発信"に積極的に取り組んでおり、まちセンでもその活動をバックアップしています。地域担当職員2人の頑張りで住民からの信頼も増し、（まちセンへの）要望・相談の件数は、全まちセン中一番！ これからも、眠っている城南の魅力の"種火"を見つけ、その火を少しずつ大きくするお手伝いができればと思います。

見つめる先は城南の明るい未来!? 笑顔がすてきな福島三希子さん（写真左）と誠実な人柄の松村竜一さん（同右）

お問い合わせ ●熊本市地域政策課 ☎096(328)2031（月～金曜・8:30～17:15）、chiikiseisaku@city.kumamoto.lg.jp
●中央区まちづくりセンター ☎096(328)2232 ●城南まちづくりセンター ☎0964(28)2260